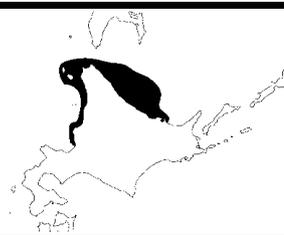
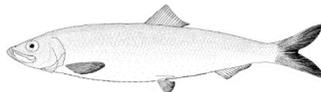


19. ニシン

主な漁業と漁期

沖合底びき網：主に4月
刺し網：主に2～6月



道北日本海～オホーツク海海域

生態

◆分布・回遊【北海道・サハリン系群】

サハリン南部からオホーツク海の網走湾、日本海の石狩湾に至る水深200m以浅に分布しています。北海道・サハリン系群は幼魚～未成魚期には、主にオホーツク海で生活し、成魚になると日本海に移動し、以後日本海に留まります。

※この海域には、北海道・サハリン系群の他にテルペニア系群、石狩湾系群、湖沼性ニシンが分布しており、資源構造が複雑です。上記の分布図は、これら全ての系群の分布を示しています。

◆産卵期・産卵場

- ◎産卵期は3月下旬～5月上旬です。
- ◎産卵場はサハリン南西岸、石狩湾以北の日本海沿岸、雄武以北のオホーツク海沿岸に形成されます。

◆成長・成熟

(5～6月時点)

	尾叉長(cm)	体重(g)
1歳	10	
2歳	17	
3歳	22	116
4歳	25	169
5歳	27	190

*) 1歳、2歳はビスクーノフ(1952)、3～5歳は1983年級群の水試測定資料より

*) 加齢の基準日：5月1日

◎成熟年齢・尾叉長

雌雄とも、尾叉長23cm以上、4歳以上で、半分以上の個体が成熟します。

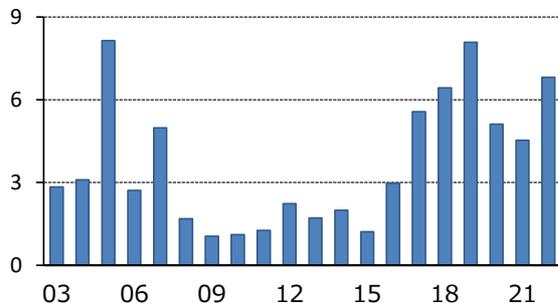
資源評価

[評価年] 1月～12月

[来遊水準の指標] 漁獲量

北海道ではかつて北海道・サハリン系群とみられるニシンが大量に漁獲されていましたが、1950年代以降漁獲は減少し、1992年度以降は1万トンに満たない水準となっています。2022年度の石狩湾系群を除いたニシンの漁獲量は6,813トンとなり、北海道への来遊状況は中水準と判断されました。資源が日本漁船の操業水域外に広く分布していることが想定されるため、翌年にかけての来遊動向は不明です。

漁獲量(千トン)



2022年度
の水準



中水準

2023年度
の動向



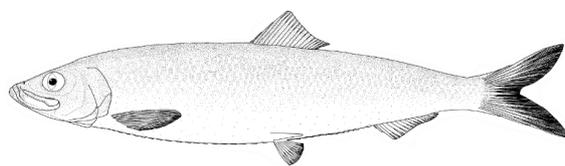
不明(またがり)

※道総研が受託している国の資源評価調査のデータも利用して評価しています。

資源の維持・増大のために!

資源管理の現状(主なもの)

- 沖合底びき網漁業の条件
体長22cm未満の小型魚の漁獲尾数が、ニシンの総漁獲尾数の10分の1を超えてはならず、超える場合には直ちに漁場を移動しなければなりません。
- その他
漁業権行使規則等で操業期間、漁具の制限等を定めています。



☆またがり資源のため、来遊状況を注視し、持続的に資源を利用していくことが重要です。

問い合わせ先

北海道水産林務部水産局漁業管理課資源管理係
北海道立総合研究機構 稚内水産試験場調査研究部

電話 011-204-5477

電話 0162-32-7166